

## ◆団体基本情報

|          |  |    |           |              |                      |          |                |
|----------|--|----|-----------|--------------|----------------------|----------|----------------|
| No.      | 18   | 種別 | 公益財団法人    | 団体名          | 公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団 |          |                |
| 所在地      | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町一丁目3-9                     |    |           |              |                      |          |                |
| 電話番号     | 022-225-3934                                 |    | FAX番号     | 022-225-4238 |                      | 所管<br>部局 | 文化観光局<br>文化振興課 |
| 団体ホームページ | https://www.sendaiphil.jp/                   |    |           |              |                      |          |                |
| 代表者職氏名   | 理事長 高橋 宏明                                    |    |           | 設立年月日        | 平成4年4月1日             |          |                |
| 資本金・基本財産 | 1,220,613                                    | 千円 | 市の出捐額(割合) | 1,000,000    | 千円                   | (81.9%)  |                |
| 設立<br>目的 | 交響管弦楽の演奏により、音楽文化の振興を図り、芸術文化の向上に寄与することを目的とする。 |    |           |              |                      |          |                |
| 事業<br>概要 | オーケストラによる演奏事業の実施                             |    |           |              |                      |          |                |
| 評価対象決算期  | 令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日                         |    |           |              |                      |          |                |

## ◆人員等の状況

|             | 平成30年度   | 令和元年度    | 令和2年度    |
|-------------|----------|----------|----------|
| ①常勤役員数      | 4 人      | 4 人      | 4 人      |
| うち市派遣       | 1 人      | 1 人      | 1 人      |
| 市退職者        | 1 人      | 1 人      | 1 人      |
| ②常勤役員平均年齢   | 56.5 歳   | 57.5 歳   | 59.0 歳   |
| ③常勤役員平均年間報酬 | 7,376 千円 | 7,450 千円 | 7,451 千円 |
| ④職員数        | 93 人     | 91 人     | 88 人     |
| うち市派遣       | 1 人      | 1 人      | 1 人      |
| 市退職者        | 4 人      | 4 人      | 5 人      |
| ⑤職員平均年齢     | 48.6 歳   | 48.8 歳   | 49.8 歳   |
| ⑥職員平均年間給与   | 5,385 千円 | 5,171 千円 | 5,021 千円 |

## ◆主要財務データ

|              | 平成30年度       | 令和元年度        | 令和2年度        |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ①当期経常増減額     | △ 15,517 千円  | 25,799 千円    | 113,007 千円   |
| ②当期経常外増減額    | 143 千円       | 800 千円       | 778 千円       |
| ③当期一般正味財産増減額 | △ 15,446 千円  | 26,527 千円    | 113,706 千円   |
| ④一般正味財産期末残高  | △ 74,275 千円  | △ 47,748 千円  | 65,958 千円    |
| ⑤指定正味財産期末残高  | 1,229,944 千円 | 1,224,503 千円 | 1,220,613 千円 |
| ⑥正味財産期末残高    | 1,155,669 千円 | 1,176,755 千円 | 1,286,571 千円 |
| ⑦長期借入金残高     | 0 千円         | 0 千円         | 0 千円         |

## ◆市の財政的関与

|                   | 平成30年度     | 令和元年度      | 令和2年度      |
|-------------------|------------|------------|------------|
| ①市からの補助金          | 320,542 千円 | 320,490 千円 | 322,257 千円 |
| ②市からの委託料(指定管理料含む) | 9,836 千円   | 376 千円     | 550 千円     |
| ③市に対する収入依存度       | 38.72 %    | 35.08 %    | 37.23 %    |
| ④市からの借入金          | 0 千円       | 0 千円       | 0 千円       |
| ⑤市からの債務保証に係る債務残高  | 0 千円       | 0 千円       | 0 千円       |
| ⑥市からの損失補償に係る債務残高  | 0 千円       | 0 千円       | 0 千円       |

◆主要事業一覧及び概要

| 事業名          | 事業概要  | 令和2年度事業費  |
|--------------|---|-----------|
| 自主事業（自主公演）   | 楽団の基本事業である定期演奏会7回9公演（新型コロナウイルス感染症の影響により2回4公演中止）及び特別演奏会6日6公演（同4日5公演中止） | 63,200 千円 |
| 依頼演奏会        | 地方自治体、企業及び団体などからの依頼を受けて演奏する事業43日60公演（同32日41公演中止）                      | 87,504 千円 |
| 室内楽          | 弦楽四重奏などの小編成で行う依頼演奏会38回  | 7,040 千円  |
| ジュニアオーケストラ事業 | 仙台市の音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的とした事業の受託業務                                   | 20,035 千円 |

◆経営評価の総括

| 項目                    | 外郭団体による総括   | 所管局によるコメント  |
|-----------------------|---|---|
| 1. 公益的使命・市が期待する役割への対応 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの演奏会が中止となったが、自主公演については、国、県・市の方針及びケツク音楽公演運営推進協議会作成のガイドライン等に則り、感染症予防対策を徹底した上で、いち早く演奏会を再開した。入場者数の制限等もあり、集客数は減少したが、コロナ禍の中で安らぎの時間を届ける事ができた。また、青少年等への普及・指導では、仙台ジュニアオーケストラの指導にあたりとともに、中止となったオーケストラ鑑賞会の代替公演として、室内楽による学校訪問ミニコンサートを小学校16校で開催するなど、機会提供にも力を入れた。今後も感染症対策を万全に行い、音楽の素晴らしさを届ける活動を継続し、楽都・仙台の推進に貢献していく。</p>   | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により活動が大幅に制限された中においても、いち早く演奏会等の活動を再開することで、他の団体を含めた文化芸術活動再開への機運づくりに大きく貢献した。また、室内楽による学校訪問ミニコンサートの開催等、若い世代が音楽に触れる機会を積極的に創出している。</p>   |
| 2. 業務・組織管理            | <p>平成30年度当初から、総務部・事業部の業務分掌を見直し、営業・広報・演奏事業の連携をさらに強化・充実させた営業推進体制とし、収益向上を目指すための簡素かつ効率的な事業運営体制を構築している。楽団員については、引き続き、定年後の再雇用を行うとともに、楽団員数規模の適正化を中心とした効率的な組織運営を図りながら、楽団の音楽的水準の向上に努力している。</p>   | <p>「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づいた取り組みにより、効率的・効果的な事業運営体制の構築や楽団員数の適正化等、着実に改善を進めている。引き続き見直しを進め、安定的な組織運営に努めていただきたい。</p>  |
| 3. 財務状況               | <p>新型コロナウイルス感染症の影響による演奏会の中止等により、事業収益が大幅に減少したものの、多くの寄付金、雇用調整助成金の受給、学校巡回公演の新規獲得等により、経常増減額、当期末累積収支はともに黒字となった。しかしながら、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の収束が望めず、依頼公演数や自主公演の入場者数の回復の見通しが立たないことから、大幅な減収を見込んでいる。引き続き楽団の人員体制の適正化による費用の圧縮を中心とした経営改善の取り組みを進め、持続可能な財務基盤の確立を図っていききたい。</p>   | <p>事業収益が減少しながらも収支が黒字となったのは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う助成金等による部分が大きい。一方で、学校巡回公演の新規獲得等、積極的な取組みも見られる。令和3年度以降、安定的な運営を行うため、演奏機会創出に向けた積極的な働きかけや財団の運営体制の適正化に引き続き取り組んでいただきたい。</p>  |
| 4. 今後の方向性及び課題         | <p>令和2年度は経常収支が黒字となったものの、財団・楽団が、仙台市の貴重な文化的資源として今後も存続していくためには、持続可能な財務基盤の確立が欠かせない。そのため「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づく各種の取り組みを着実に進める必要がある。とりわけ、法人サポート会員（賛助会員）の増加や有料入場者率の向上に力を入れるとともに、各地の自治体、教育委員会、ホール等に対して新たな演奏会の企画・提案を行うことや、企業・団体からの協賛等の協力を依頼しながら継続性のある公演の確保を図っていくほか、楽団員数規模の適正化など効率的な組織体制を目指す必要がある。</p> <p>この間、楽団へは多くの方々から支援を頂いており、今後サービス向上策等について検討し、順次実施していきたい。また、オンライン配信等の新たな形態での公演開催等も試行し、新規顧客の開拓も進めていきたい。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症の動向は未だ不透明であり、依頼公演や自主事業は今後も影響を受けるものと思われる。</p> <p>「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づき、効率的な組織体制の構築を目指すとともに、新規事業の開拓等により、健全な運営を目指していただきたい。</p> <p>同時に、学校公演等の積極的な開催やオンラインの効果的な活用等を通じ、より多くの市民に音楽と親しむ機会を創出していきたい。</p> |